



建物外観（撮影：有限会社久礼写真事務所 小川 伸夫）

建築概要

建設地：東京都千代田区神田駿河台 3-11-5
 建築主：学校法人中央大学
 設計：株式会社日建設計
 施工：大成建設株式会社
 建築面積：約 980m² 延床面積 約 15,640m²
 階数：地上 20 階、地下 1 階 高さ：90.9m
 構造種別：鉄骨造（地上）、鉄筋コンクリート造（地下）

選評

都心部のキャンパス計画は、敷地条件の様々な制約から単なる事務所計画との差異をどのように与え、キャンパスとしての特徴を成立させるかが、建築作品としての大きな課題になるのではないかと期待を込めた。法科大学院やビジネススクールという独特の教育形態も学生の動線や、学舎としての社会との関わりを建築の計画要素として、単に教室を詰め込むだけの建物づくりではなく、免震構造を採用したメリットをどのように魅力的に展開しているかを常々評価対象としたいと考えている。

最近特に免震構造の EXP. J の安全性について、当作品賞審査委員会においても議論の機会が増えたが、敷地の勾配を生かして空間的に植栽とピロティ及びエントランスホールを連続させながら、街に開かれた空間としてブリッジを渡り集約した入口とすることで、建物の入口としての通過儀礼がキャンパスだけではなく、セキュリティを保ち、安全な EXP. J を成立させた良き事例になるのではないかと感じた。また、大パンによる教室のフレキシビリティは当然としても、積層する教室間の移動はエレベーターや味気ない避難階段の移動とはせず、眺望の良いファサードの大梁を抜いて吹き抜けを作り、大教室からの大人数の退出、自習室への移動を円滑にしながら、免震のメリットを生かして移動空間に魅力を与えている努力を評価したい。（小林 仁）

建築主：学校法人中央大学 井上英明
 設計者：株式会社日建設計 大場彬史、小野潤一郎、山本裕
 施工者：大成建設株式会社 市川直樹

免震・制振化した経緯及び企画設計等

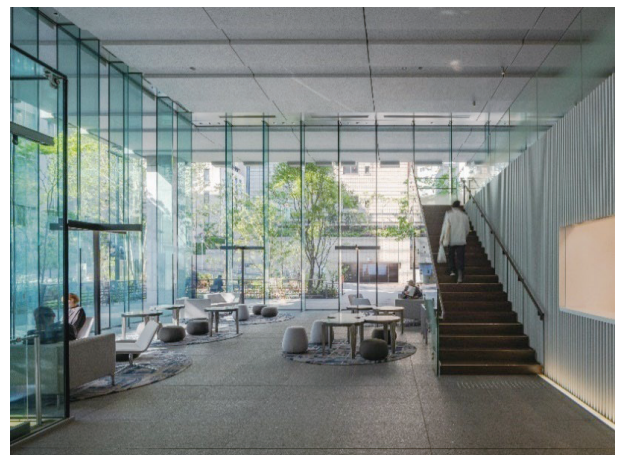
中央大学駿河台キャンパスは、長らく教育の場及び卒業生の活動の拠点であり、かつ近隣住民との共生も育んできた。その歴史を踏まえて都心型の超高層キャンパスを整備するにあたり、多岐に亘る室形状の用途を積層する建築計画、および地域の利便性や環境の向上を図る低層部の公開空地・エントランス空間と調和した構造計画が求められた。それに対し、免震構造の採用で高い耐震性を確保しつつ、合理的な架構計画により転倒抵抗を高めることで免震の弱点である引抜力の発生を抑制し、かつ主架構部材の塑性化に伴う平面・高さ方向の剛性の変動が生じにくい特長を活かした構造計画により、魅力的な機能と空間を有する建物を実現した。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

短周期領域のスペクトルが卓越する地盤特性を鑑みて免震構造を採用し、地下 1 階柱頭免震とすることで既存地下躯体の解体および掘削を最小限とし、コストを抑制した。

建物の平面形が約 32m × 22m と比較的コンパクトであり、かつ各階で間仕切り位置が大きく異なる建築計画において、免震により建物に作用する地震力を低減したことを活かし、H-1000 の大梁を井桁状に設けることで約 22m × 22m の無柱空間を実現した。同時に、この井桁梁で建物の外周構面に常時の鉛直力を集約することで、建物の転倒抵抗を高めた。

また、エントランス直上の 3 階の外周構面に、上下弦材と斜材からなる 1 層使いの軸力乗換架構を設け、低層階の柱および免震支承を建物隅部に集約することで、免震支承に引抜力が生じることを抑制しつつ、低層部の公開空地およびエントランスを開放的な空間とした。



エントランス内観（撮影：高栄 智史）